

心の輪を広げる体験作文 小学生部門 優秀賞

「ぼくのおばあちゃん」

相模原市立小山小学校

三年

綿貫 わたぬき

汐音 しおん

ぼくのおばあちゃんは、ぼくが小さいころのうこうそくでたおれ  
て、のうにしようがいをもった。

ぼくはよくお母さんとおばあちゃんに会いにびょういんにいつて  
いた。

コロナかになり、会うのもリモートになった。リモートだと会っ  
ている気がなくてびょういんへいかなくなった。

この前、おばあちゃんがもうながくないかも、と聞いた。

ちよくせつ会えることになり会いに行った。ひさしぶりなおばあ  
ちゃん、ぼくを見ると手と声をだしてよろこんだ。

びょういんにいる人は、ぼくたちが会いにいかないと、会うこと  
もできない。何を話しているかわからなくても目を見ていると何が  
うれしいかわかる。

ぼくになにかできないか？とお母さんに聞いてみた。

会いにいつて、顔をみせてパワーをあげること、と言っていた。

ぼくが会いにいつたあとおばあちゃんが少し元気になったと聞い  
た。みんながパワーをあげたからだとうれしく思った。

八月五日、おばあちゃんが天国へいつた。

ぼくははじめておそう式へ行つた。さびしくてかなしい気もちで  
いつぱいだった。

コロナかで会えなくても心はささえあう、とかんじた。